

ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H.28.2.13

No.33

ルクソール

ルクソールは、新王国時代（約3500年前～約3000年前）12代王朝の時に古代エジプトの首都となり、「**テーベ**」と呼ばれていました。新王国時代18～20王朝の時に全盛期を迎えました。**ルクソール神殿、カルナック神殿、ハトシェプスト女王葬祭殿、王家の谷**など、ルクソールはみどころがたくさんあります。

王家の谷は、新王国時代に岩を掘ってつくられ、全部で60を超える王の墓が発見されています。有名な**ツタンカーメンの黄金のマスク**（右写真）も



ここで発見されました。いくつかの墓の中に入っ
て見学することができます。特に、**ラムセス4世**
の墓には色鮮やかな壁画が残っ
ていて、当時の世界観がよくわか



カルナック神殿の参道のスフィンクス

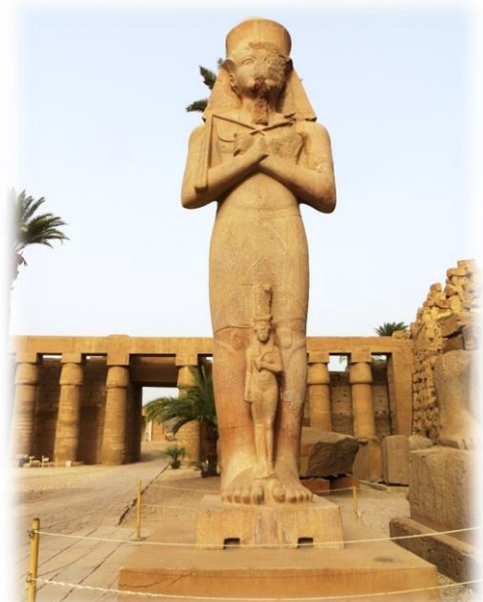
ります。**その頃の日本と比べると、エジプトは技術や思想がいかに発達していたか実感できます。**

カルナック神殿は、アメン大神殿を中心に、二千年もかけて多くの王が神殿を増築したため、エジプト最大級の神殿となりました。参道の両側に並ぶスフィンクス。**大列柱室、ハトシェ**

プスト女王のオベリスクなど、規模大きさや技術の高さなど、ただただ圧倒されるばかりで言葉を失います。今回の旅行で多くの遺跡をみてきましたが、一番印象深い遺跡になりました。

ルクソール神殿は、アムン大神殿の附属神殿として建てられました。カルナック神殿とは、スフィンクスが両脇に並ぶ参道で結ばれています。**第一塔門の前には、ラムセス2世の一对の座像と二本のオベリスクが建っていました。**現在は左側だけで、右側のオベリスクは、**パリのコンコルド広場に建っています。**

今回の旅行で感じたのは、これだけの遺跡があり、ベストシーズン（夏は50℃を超えます）なのに、**あまりにも観光客が少ない**ことです。治安の心配が一番の原因です。本当にもったいないことだと思います。現地の人に聞くと、2011年の革命前の1割ほどしか日本人の観光客が来ていないとのことでした。一日も早い治安の回復を願わずにはられません。



カルナック神殿のラムセス2世像



ルクソール神殿の第一塔門